

<b>議 事 録</b>		報告者	片桐 英登
会議の名称	令和2年度第1回大府市公共下水道事業経営検討委員会		
日 時	令和2年9月18日（金）9時40分～11時40分	場所	境川浄化センター
出席者 (欠席者)	出席委員：齊藤由里恵委員長、伊藤友子副委員長、古市晃久委員、近藤伸一委員、今津直樹委員、山本友和委員 欠席委員：伴博委員、竹内由美子委員、井上愛委員 大府市：岡村秀人市長 事務局：杉山鐘碎水道部長、小木曾利章下水道課長、奥村喜美子下水道課庶務係長、鈴木大輔下水道課下水道係長、鈴木智彦下水道課下水道係主任、三浦大輝下水道課庶務係主任、片桐英登下水道課庶務係主事		
内 容			
<p>1. 開会</p> <p>2. 市長あいさつ</p> <p>3. 委員紹介__資料1</p> <p>4. 委員長及び副委員長選任 齊藤委員が委員長として、伊藤委員が副委員長として選任される。</p> <p>5. 委員長あいさつ</p> <p>6. 議題～大府市公共下水道事業の概要と現状について～</p> <p>（1）大府市公共下水道事業経営戦略について__資料2【説明者：下水道課長】</p> <p>（2）大府市公共下水道ストックマネジメント計画について__資料3【説明者：下水道課長】</p> <p>（3）大府市の下水道パンフレットについて__資料4-1～3【説明者：下水道課長】</p> <p>【質疑応答】</p> <p>副委員長）はじめて説明を伺って、おおかた下水道の仕組みが理解できた。この委員会は、ストックマネジメント計画を掘り下げることを検討する会議か。</p> <p>委員長）持続可能な経営のため、作成済みの経営戦略とストックマネジメント計画が計画通り進んでいるかどうかの確認とこの計画で今後も経営していけるかどうかを議論する場という認識でよいか。</p> <p>事務局）その認識でよい。</p>			

委員長) 下水道事業特有の専門用語や、民間の企業会計にはない専門用語も多くある。例えば、一般会計繰入金、基準内や基準外と言われても意味がわからない委員も多いと思う。次回までに用語の意味がわかる用語集を用意してほしい。

事務局) 次回までに用意させていただく。また、経営戦略作成時点から時間も経過しているので最新の情報も合わせて提供させていただく準備をしている。次回資料は、事前に郵送等でお渡しさせていただく。

委員長) 経営戦略中に出てくる類似団体とは、主に人口規模で抽出しているのか。

事務局) 下水道が使えるようになってからの年数、下水道が使える人口の規模や人口密度の項目で、全国の中で大府市と類似している団体を抽出している。

委員長) 下水道事業の貸借対照表では、一般的に固定資産の割合が高い。ただし、民間会社とは異なり売却不可能の資産で事業を運営していく点が特殊である。

委員) 経営戦略8ページにある「単年度の収支」だが、民間企業と見方が異なるのでよくわからない。100%超えればよいということか。

事務局) 100%未達は、改善を要するという意味である。

委員) そうすると平成25年度から数値が右肩上がりになっており、100%に近付いていると思うが。

事務局) 借金の残高のピークを過ぎ、借金を減らしつつ、新たな借金も抑え事業運営している。このまま運営すれば徐々に100%に近付いていくと思われるが、今後、老朽化等の維持管理費が莫大に発生することが予想される中で、100%を目指す必要がある。この会議の中で、その維持管理費も借金した方がいいのか、しない方がいいのか議論していきたいと思っている。

委員) 企業でいうと過去のことを言っている。今後の投資額も踏まえた資料はあるか。

事務局) 第2回委員会で資料を準備しているが、昨年度までは会計方式を現金主義で処理しており、今年度から民間企業で導入している複式簿記の発生主義で処理している。まだ、数値の取扱いに手探りの部分があるので次回までの課題とさせていただく。

委員) 民間企業も3~5年先の見込みをするが、様々なことが変わってくるのでそんなに当たることはない。見込みを出したからといって絶対条件にはならない。将来の投資額とセットで話をしてほしい。

事務局) そのように資料を調整させていただく。

委員長) 今まで減価償却を積んでいないというところも大きなところ。施設の更新をしようとするとお金がたくさんかかってしまうのでなるべく平準化しつつお金をどう工面するかが課題である。

委員) 料金徴収の面で、水道料金と下水道使用料をセットに検討しないのはなぜか。

事務局) 料金徴収は確かに上下水道いっしょに徴収しているが、会計が異なる。水道料金は、水道事業会計、下水道使用料は下水道事業会計で管理している。

副委員長) 上水道の経営は上手いっているのか。

事務局) 水道料金は、25年間料金改定を実施していなかったが、平成23年度に約20%値上げした。その結果、黒字となり、現在も黒字経営となっている。水売りりと汚水処理は別々の会計をしている。ここを混ぜるとわからなくなってしまう。

委員) 市長も言っていたが、水道料金は料金改定できて、下水道使用料は料金改定できていないとのことだが、市民目線からすれば水道料金を20%値上げすることとそれぞれ10%値上げすることと変わらない。会計管理として別々にしなければいけないことはわかったが、大きな歳入として考えればいいのではないかと思うところはある。

委員長) 市の経営、水道の経営、下水道の経営とそれぞれ規模が違うイメージである。その部分も次回資料に組み込んでほしい。本来であれば、水道事業も下水道事業もそれぞれ管理者を置いてよい。民間企業でいうと違う社長を置いてよい。

## 7. 今後の会議開催スケジュールについて\_\_資料5【説明者：下水道課長】

## 8. 施設の概要説明及び見学【説明者：知立建設事務所都市施設整備課】

### 【質疑応答及び意見交換】

委員長) 大府市の公共下水道は、全て境川浄化センターで処理しているのか。大府市単独の処理場は所有していないか。

事務局) 全て境川浄化センターで処理している。市単独の処理場は所有していない。

委員長) 流域下水道にお願いしているのは、流域幹線管渠の接続点以降か。

知立建) 流域の幹線管渠までの公共下水道は、大府市が建設及び管理、幹線管渠からは県が建設及び管理している。流域下水道にかかる費用の一部を利用市町で負担している。

委員) 維持管理費等負担金の利用市町への配賦基準はなにか。

知立建) 汚水の流入水量である。

## 9. 閉会